

## 第20回設計フォーラム

## 『設計教育の未来 ～環境の変化と企業の求める人材像～』

## 開催趣旨

設計ならびに製図教育は、我が国のものづくり力の根底を支え、工学系の大学教育の必須科目であった。しかし、工学教育は、どうつくるかから、何をつくるか、新たなものの創造へと、大きく変貌してきている。多くの大学で、設計製図教育は形を変え、ロボコンなどに代表されるPBL型のグループワークに組みかえられている。

工学教育の中でも、設計教育は、ものづくり力に直接かかわり、その変貌は我が国のものづくり力、製品開発力に大きく影響する。そこで、本フォーラムでは、大学における設計製図関連科目の現状、カリキュラムの変更、大学・大学院教育における研究力付与への新たな取組み、企業側が求める人材像における設計力、ものづくり力、教育界と産業界におけるこれらの橋渡しの課題等について、講師の方々より講演していただくとともに、会場の参加者と議論を深めることを目的とする。

日時：2013年5月25日(土) 13:00-14:50

会場：国士舘大学梅ヶ丘キャンパス 34号館 2階 B202 教室  
(〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1)

司会：川岸 正武（東京設計管理研究会）

時間	題目	内容	講師
13:00 ～13:05	挨拶		日本設計工学会研究調査部会長 埼玉大学 教授 綿貫啓一
13:05 ～13:35	設計製図教育からもの づくり教育へ	設計製図教育は、CADの普及やCAE教育の追加、教員の世代交代等に伴って徐々に変貌してきた。ロボコンに象徴されるものづくり教育が、学生の主体的取り組みに期待して取って代わる潮流である。その流れの中で設計教育の方向性を探る。	東京工業大学 教授 笹島和幸
13:35 ～14:05	OPL教育 ーグローバル化、創造 性、リーダーシップー	大学および大学院教育改革がGPの名の下に進められ、大学院教育は見える化が求められている。大学院教育における研究力は、プロジェクトや論文研究の過程において培われることから、これをOn the Project Learningとして体系化する試みを推進しており、その考え方を紹介し、学部ならびに大学院教育における問題発見／解決能力としての研究力教育について議論する。	東京工業大学 教授 笹島和幸
14:05 ～14:40	企業が求めるものづく り力	企業における研究者、開発者に求められる設計力、ものづくり力を、現場で直面する具体的な能力、社内教育の現状、グローバル展開、業務の変更などの各側面を通して紹介し、大学等における教育とのすり合わせ、その変化への対応等について議論する。	(株)東芝 京浜事業所 技術責任者 佐藤潔和
14:40 ～14:50	総合討論	全般にわたって討論する。	